



ひら
啓一

横山啓一 市議会だより

2021年11月号

〒070-0824 旭川市錦町15丁目2979-6

TEL/FAX (0166) 55-5584

E-mail: yokoyama@k-yokoyama.net

第3回定例会が終了 今津新市長の所信表明に代表質問、一般質問 2020年度決算を承認、新型コロナ追加対策を可決

第3回定例会は、市長選挙の実施のため例年より遅れて10月7日に開会し、35日間の会期で開催されました。

前半は2020年度会計決算に関わる大綱質疑と審査特別委員会、後半は10月22日の今津新市長の所信表明とそれに対する代表質問、11月1日から3日間の一般質問、新型コロナウイルス感染第5次追加対策を含む補正予算案の審議などが行われました。

閉会日の11月10日には特別委員会に付託された補正予算案などを審議し、原案通り可決しました。また、「大学生等への給付型奨学金制度の拡充を求める意見書」など2件が賛成多数で、「沖縄戦没者の遺骨等を含む土砂を埋め立てに使用しないことを求める意見書」など7件が全会一致で採択されました。

決算審査特別委員会

2020年度一般会計等の決算認定については、審査特別委員会に付託され、6日間にわたる審議の結果、10月22日の本会議で原案どおり承認されました。以下は、総務経済文教分科会で行った質疑の概要です。

◇特別支援教育補助指導員、学校司書、スクールカウンセラーなど、小中学校への人的な配置の状況は

▶市費負担教員は10名を小学校へ配置。特別支援教育補助指導員は57校に83名を配置し、うち14名は医療的ケアを行う看護師資格保有者。学校司書は52名体制を維持し、複数校兼務は17名で5校兼務は解消。スクールカウンセラーは市費単独雇用の1名を含む16名で、小学校1782件、中学校1804件の相談に対応。部活動指導員は8名を配置。

◇新市長就任により、少人数学級編制事業が見直される可能性は

▶少人数学級編制事業は市の第2期学校教育基本計画に基づき実施している。国の定数改善の動き、財政面や人材確保等の課題はあるが、今後も事業として継続していく。

◇フッ化物洗口事業の現状と課題は

▶おおむね8割前後の児童が参加。2020年4月から感染症拡大により実施を見合わせ、現在も継続中。再開の見通しは立っていない。2021年度は薬剤を医療用医薬品に変更したため、不用となった2020年度分のフッ化ナトリウム試薬は今年度中に回収する。

◇児童生徒用トイレ、職員用トイレの洋式化の現状は

▶トイレ1基当たりの児童生徒数を男子25人、女子10人となるよう、大規模改修・増築などで84基（ア）

コロナ感染対策交付金を活用して493基を整備。職員用は男女とも洋式がない学校が3割程度、男性用がない学校が1割程度あり、整備を進めたい。

◇給食費の公会計化の検討状況は

▶導入システムの仕様等の検討、導入費用やランニングコスト抑制の作業を進めており、2022年度にはシステム構築や条例等の整備、保護者への周知等を経て、2023年度からの導入を図りたい。



10月18日、決算特別委員会の総務経済文教分科会で質疑

◇公会計化による教職員の業務負担軽減の見通しは

▶給食費請求や徴収業務を市教委が行うことで、概算で1校当たり年間100時間前後の業務削減を見込む。

補正予算等審査特別委員会

新型コロナウイルス感染第5次追加対策を含む補正予算案等は審査特別委員会に付託され、11月4日から3日間の審議が行われました。

委員会では、修学旅行等のキャンセル料支援について、各学校の現状を確認し、今後の事業継続を求めました。

◇キャンセル料の発生状況 ▷2度の緊急事態宣言発令などにより、修学旅行は小学校34校、中学校8校、宿泊研修は小学校28校、中学校10校が延期。第2回定例会以降の補正額を含めると、小学校は800万6千円、中学校は2637万1千円のキャンセル料が発生。

◇学校現場の状況 ▷行事日程の変更に加え、準備期間やその他の教育計画の見直しに迫られた。来年度以降も延期等の可能性に対し、支援を検討していく。

新型コロナ第5次追加対策 (14億2295万5千円)

①医療・保健対策 ▶ワクチン接種体制の確保、自宅待機者の健康観察体制、介護・福祉事業所の感染対策支援、小中学校感染対策物品購入、修学旅行等キャンセル料支援などに 8億1807万5千円

②生活者経済対策 ▶障害者の就労機会確保（布マスク買取、就労施設商品の受注促進、クーポンによる商品購入促進）に 2004万8千円

③事業者経済対策 ▶公共交通事業者や農業者等の事業者追加支援、事業継続応援支援金、飲食店感染防止対策認証取得奨励金などに 5億8483万2千円

一般質問11月1日・2日
・4日の3日間

で一般質問が行われました。

今回は、①市制施行100年と各種記念事業、②教職員の働き方と児童・生徒の現状について質問し、市長および市の考えをいただきました。



11月4日、一般質問に立つ

市制施行100年の節目は、「新旭川市史」編集事業の再開に着手する好機。史料の分析評価と歴史叙述の記録を残し続けることの重要性を確認したい。

「いじめ問題」など子どもたちの課題を解決するためには、条例制定や相談・監視体制の強化だけではなく、そうした問題を未然に防ぎ、また、大きくなる前に対処できるよう、教職員や保護者も含めた学校環境の改善こそが必要だ。

**市制施行100年と各種記念事業について聞きました**

◇市制施行100年の意義について、市長の見解は

▶開拓や軍都としての成長、アイヌ民族への同化政策や差別、自然災害や敗戦を乗り越え、戦後の産業発展、都市機能の整備など、市の歴史をこの節目に振り返り、市民が改めて地域の魅力を学び、愛着と誇りを実感する機会にしたい。

◇文学や芸術などの文化政策、アイヌ文化についての市長の認識は

▶彫刻美術館、文学資料館等の文化施設、中原悌二郎賞や音楽大行進等の事業を生かして文化芸術の振興を図っていく。自然と共生しながら築かれてきたアイヌ文化は、本市の文化振興に重要な位置づけになると認識している。

◇来年の「知里幸恵没後100年」の意味づけと市の取組は

▶知里幸恵さんが暮らし、アイヌ口承文芸が記録され、日本語訳された現北門中学校周辺は、文学碑も立つ、いわば「アイヌ文学の聖地」でもある。没後100年にむけ、彼女ゆかりの地を多くの人に知ってもらう取組を検討している。

教職員の働き方と児童・生徒の現状について聞きました

◇教職員の時間外勤務の推移、把握方法など、現状と課題は

▶時間外勤務は実際の在校等時間から所定の勤務時間分を差し引いた時間として管理。時間外在校時間が月45時間を超える教職員の割合は小中全体で22.1%で、2019年度より下がった。上限未達の教職員の状況、持ち帰り業務や週休日の勤務の状況など課題はある。

◇現状は「変形労働時間制」を導入できる状況か

▶制度導入には、市教委が週休日や勤務時間の割り振りについての規則等を定める必要がある。在校等時間を上限時間の範囲内とする、長期休業中の業務縮減を図るなどの条件も、国によって規定されている。現状では直ちに導入が可能状況ではない。

◇児童生徒の日課と教職員の勤務時間の関わりや業務の状況は

▶児童生徒はおおむね15時30分前後に下校。教職員はその後休憩時間に入り、16時30分前後に勤務時間終了。成績管理や進路指導業務、学年・学級通信作成、授業準備や打合せ、保護者対応等の業務は児童生徒在校中にできないため下校後に行われている。

◇いじめの未然防止、「いじめ防止条例」についての考え方は

▶全中学校の代表が協議する「生活・学習Actサミット」開催や、「いじめ・非行防止強調月間」設定など児童生徒が主体の取組で未然防止を図りたい。条例については、市のいじめ防止の基本理念や、学校・家庭・地域の役割等を内容とすることを想定し、2022年度の制定を目指したい。

◇「いじめ・非行防止強調月間」の取組については時間外にわたる生徒会指導等の課題があるのでは

▶自治的な集団活動によって、人間関係や学校生活をよりよくしようとする力や態度を育成するため、各学校は必要な時間を確保して取り組んでいる。児童生徒主体の活動には時間を要し、勤務時間外にも教職員が対応している実態もあると認識している。

◇いじめを生まない学校をつくるには、児童生徒に向き合える時間の確保が必要ではないか

▶心の通い合う人間関係を築く力の育成に努めながら、教職員を支援する人材の配置、負担に配慮した教育課程の編成実施、働き方改革の推進などとあわせ、少人数学級編制にも取り組み、教職員が児童生徒一人一人に向き合うことのできる体制を整備していく。

▶開会が1か月ほど遅れた第3回定例会は、新市長の所信表明とそれに対する質疑が相次ぎ、会期中に衆議院議員選挙も行われるなど、注目度の高いものになりました。私も決算委員会や一般質問で、過去の歴史の評価、行政の継続性の重要性を指摘し、少人数学級編制事業の継続についても確認できました。▶旭川市の学校や教育が全国的にも注目される中、現場の教職員は厳しい勤務実態にも関わらず、これまでも必死に子どもたちの様々な課題に向き合ってきた現状を理解してもらうため、一般質問で多くの時間を費やしました。信頼関係は一方通行では成り立たないものです。▶「いじめを生まない学校」をつくるためには、子どもたちが集い、教職員も共に生きて育つ場から、競争や選別、排除の論理を無くし、自ら考えて答えを出す力を育てる必要があります。▶かつて

学級担任だったころ、班編制や座席配置、班替えの可否などを班長会議に任せる学級づくりに取り組み、その過程を保護者とも共有しようと学級通信200号発行を目指していました。当時の教え子たちはそれをどう見ていたのか、是非聴いてみたいものです。▶コロナウイルスによるクラスターが多発しながらも、大規模な市中感染や学校での感染拡大を抑え、医療体制の崩壊もなく現在に至っているのは、前市長の指揮の下、市職員の日夜の奮闘によるものであると、決算委員会の中で表副市長が答弁しました。物事には功罪両面があり、賞賛も批判も節度やバランスが必要であることを、本定例会やこの間の選挙を通して改めて学びました。▶また雪と寒さの季節の到来です。コロナ感染再拡大、第6波の流行も懸念される中で年末を迎えますが、皆様どうぞご自愛ください(啓)